

令和4年度 学校経営計画・学校評価

☑4月5日提出 ☑10月3日提出 ☑3月15日提出

学校番号	33	須崎総合高等学校	課程	全
------	----	----------	----	---

高知県の教育基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	○生徒を、力を持った存在と認識し、持っている「力を引き出す」開発的な生徒指導を推進する学校 ○地域の魅力化や課題解決などに地域と連携して対応し、貢献する学校 ○保護者や地域から信頼され、「通わせたい」と思われる学校	目指すべき姿を実現するための取組等	1進路を切り拓くための指導に基づく学力向上 2「夢」や「志」を持たせる指導の充実と、目指す進路を実現できる指導の推進 3力を引き出す生徒指導と予防的支援の展開 4社会の一員として責任を果たすことができる社会力の育成 5故郷を大切に思う生徒の育成に向けた地域との連携
生徒像	○授業を大切に、意欲を持って学習することができる生徒の育成 ○目標や志の実現に向けた進路選択を行うことができる生徒の育成 ○自己指導能力を身に付け努力することができる生徒の育成 ○自己の成長や地域への貢献に力を発揮できる生徒の育成		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	学校評価アンケートで、「先生はわかりやすい授業に努めている」の肯定的回答は、保護者91.7%、地域77.7%、「夢や目標を持って学校生活を送っているか」の肯定的回答は、保護者74.2%、地域77.7%で、比較的高い評価であり、昨年より保護者の数値が2項目ともにアップしている。今後も、「主体的、対話的で深い学び」の実現や、ICTの効果的な活用といった新たな課題や、生徒全員の進路実現に向けて引き続き取り組む必要がある。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	「部活動に積極的に取り組んでいるか」の肯定的回答は、保護者74.1%、地域100%、「地域貢献やボランティア活動等、積極的に参加しているか」の肯定的回答は、保護者78.7%、地域100%であった。新型コロナの影響で活動が制限される中、普通科の総合的な探究の時間、工業科のものづくりに根差した課題研究の成果発表として学習成果発表会を中学生他、連携している地域の関係者に対して実施し、好評を得ることができた。その他、中学校への出前授業、地域等との連携活動を実施し、生徒の社会性の育成につなげた。
【チーム学校】 評価 【 B 】	「学校は教育方針・教育目標に向けた取組をしているか」の肯定的回答は、保護者83.8%、地域100%、「ホーム担任の正副担任制(普通科:複数担任制)」は、きめ細かな指導ができてきているか」の肯定的回答は、保護者92.5%、地域57.2%で、保護者の肯定的意見が7.3ポイント上昇するなど高い評価を得た。今後も学校行事、部活動等、学校の様々な教育活動において教職員が一丸となって取り組み、教育効果をあげることが大事である。

《重点項目: 生徒に対する取組項目》

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○授業等において内容理解に向け意欲的に学ぶとする生徒【取組力】 ○課題を最後までやり抜くことができる生徒【持続力】 ○将来の進路を意識した学習ができる生徒【自己実現力】	○AB層を増加させ、D層・D3層を減少させる指導(普通科 A/B層の増加、D層30%以下、工業科 A・B層の増加、D3層25%以下) ○授業におけるめあてや目標の提示と、振り返りの確保による学習内容の定着度の向上 ・授業の振り返りができている。(70%以上) ○国立大学合格者 5名以上(R3:5名) ○公務員合格者 2名以上(R3:0名)	→長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルやスタディサポート活用、ブックの積極的な活用 評価が、2段階上昇した生徒の表彰制度 →学習成果発表会(総探・課題研究)の活用	B ・スタサポ3教科総合では、1年B1+1、B2+3になっている。2年生は、A2+1、D層ではD3が-7の6名となっている。D層30%には届いていない。 ・工業科は2年B1+1、1年A・B層おらず、D3層2年30.4%、1年36.2%である。 ・12「自らふりかえる場面が設定」肯定的回答:①1年88.5%、2年68.3%、3年71.2%	→長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルやスタディサポート活用、クロムブックの積極的な活用(年末実施予定) 評価が、2段階上昇した生徒の表彰制度 →学習成果発表会(総探・課題研究)の活用	B ・12「自らふりかえる場面が設定」の肯定的回答は、1年88.6%→77.5%、2年68.3%→68.8%、3年71.2%→79.7%で、2年生は70%を超えていないが学校平均で、70%以上の目標は達成できた。 ・現時点で、国立大学進学者4名、公務員市町村1名、自衛隊1名	・朝学習やシラバスの有効活用により、基礎学力の向上につなげる。 ・キャリアートやキャリアパスポートの有効活用を図り、生徒のキャリア発達を促す。 ・大学進学講座等の活性化や模試の活用により進学に対する意識を高める。 ・評価項目・内容を検討し、クロムブックを活用し、学期ごとに校内アンケートを実施する。
社会性の育成	○場に応じた適切な言葉遣いができる生徒【コミュニケーション力】 ○場に応じた適切な行動ができる生徒【自立性・自律性】 ○規則やルールを守ることができる生徒【道徳性・規範意識】	○ボランティア活動の推奨による自己効力感や自己有用感の育成 ・地域貢献やボランティア活動に参加(50%以上) ・Can-Doリストの活用(3.2級) (R3:2.9) ・「海のまちプロジェクト」須崎市との連携、地域協働活動推進委員との展開	→自治体や地域と連携した防災活動の展開をとおして、頼られる学校・生徒の育成＝ボランティアポイントの紹介と活動へのいざない →Can-Doリストの自己評価 →須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域協働活動推進委員との展開	C ・26「目標を立て～努力」の肯定的回答は、①1年80.9%、2年72.2%、3年73.6%であった。 ・21「地域貢献活動～行動」の肯定的回答は、①1年29.7%、2年27.7%、3年11.2%と少ない。 ・Can-Doリスト①平均3.0級 ・部活動への加入率は79.4%。	→ボランティア活動の推奨による自己効力感や自己有用感の育成 →Can-Doリストの自己評価 →須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域協働活動推進委員との展開	B ・26「目標を立て～努力」の肯定的回答は、1年81.0%→75.5%、2年72.2%→67.5%、3年73.6%→83.7%と3年生は増加した。 ・21「地域貢献活動～行動」の肯定的回答は、1年29.5%→20.6%、2年27.8%→26.3%、3年11.2%→20.3%と3年生は増加した。 ・Can-Doリスト①平均2.9級 ・部活動への加入率は79.4%	・学校行事に向けて、早い段階からの企画立案に取り組み、生徒と教職員が一体となって取り組む。 ・部活動の加入率を上げ、活性化に努める。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加するための仕組みを構築する。 ・評価項目・内容を検討し、クロムブックを活用し、学期ごとに校内アンケートを実施する。

《チーム学校: 教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	分かりやすい授業の指導技術の向上、創意工夫	・「学習のねらい」(85%以上) ・学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある(80%以上) ・ICTを活用した授業実施(90%)	・公開授業による参観授業、振り返りの実施、管理職の巡回及び授業参観 ・各教科会、科会の実施 ・管理職面談による進捗状況の確認 ・ICTを活用した公開授業の実施	B ・10「学習のねらい」肯定的回答:①1年96.2%、2年68.2%、3年80.0% ・11「知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したり…」肯定的回答:①1年84.8%、2年76.2%、3年76.0%	・公開授業による参観授業、振り返りの実施、管理職の巡回及び授業参観 ・各教科会、科会の実施 ・管理職面談による進捗状況の確認 ・ICTを活用した公開授業の実施	B ・10「学習のねらい」肯定的回答:①1年96.2%②83.3%、2年①68.3%②65.0%、3年①80.0%②86.2% ・11「知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したり…」肯定的回答:①1年84.8%②75.5%、2年①76.2%②65.0%、3年①76.0%②83.8% 平均78%	・共有フォルダを活用して、各教科内で教材を共有し、教材研究の効率化を図る。 ・教科会の効果的活用。 ・若年教員研修や学力向上プラン等を活用しながら公開授業、研究協議に教職員が積極的に参加し、教科会全員で共有して授業改善に取り組む。
生徒理解 生徒支援	教職員間の情報共有により、円滑な学校生活を送ることができる生徒支援を実践する	○生徒支援委員会を開催し、教職員に周知し、SCやSSWとの情報交換も行っている。 ・学校の生徒支援は充実している(80%以上) ・悩みや困ったことについて気軽に先生に相談できる(80%以上)	・科会、教科会等による生徒情報交換会 ・特別支援教育学校コーディネーターによる生徒支援委員会の実施 ・生徒理解・支援の研修会を実施 ・SCによる新入生全員の面談を実施	B ・生徒支援委員会・いじめ防止対策委員会の定期的な開催と全体へ情報共有することで支援充実。 ・SC、SSWと密な連携を図っている。 ・22「困ったことや問題～相談」肯定的回答:①80.9%、2年75.4%、3年83.2%	・科会、教科会等による生徒情報交換会 ・特別支援教育学校コーディネーターによる生徒支援委員会の実施 ・生徒理解・支援の研修会を実施 ・SC、SSWとの情報共有	B ・生徒支援委員会・いじめ防止対策委員会の定期的な開催と全体へ情報共有することで支援充実。 ・SC、SSWと密な連携を図っている。 ・22「困ったことや問題～相談」肯定的回答:1年①80.9%②73.5%、2年①75.4%②70.0%、3年①83.2%②85.4%	・支援委員会において情報共有だけでなく、具体的な支援方法を検討し、より効果的な内容にする。 ・1,2年生に対して、4月の早い段階からSCによる面談を継続して実施し、教職員と情報共有を図る。
学校の振興	教育内容の充実を図り、魅力ある学校づくりを目指す	○進学・就職に向けた補習は予定通り実施できたが、開かれた学校づくり推進委員会は書面開催であった。「学校生活は充実」は86.1%であった。部活動の加入率は70%以下であった。 ・学校生活は充実している(90%以上) ・部活動の活性化(加入率85%以上) ・学校運営協議会の活性化 ・自治体・大学との連携(10回以上)	・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・学校運営協議会の実施 ・部活動の継続・維持	B ・進学・就職補習や資格取得補習を計画的に実施している。 ・7「学校生活は、充実」回答:1年95.2%、2年84.9%、3年91.2% ・第1回学校運営協議会は、6月16日開催。 ・部活動は、感染症対策を実施しながら、活動。 ・インターハイ(3競技)出場。	・進学・就職補習の継続と生徒の進路保障 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・学校運営協議会の実施 ・部活動の継続・維持	B ・進学・就職補習や資格取得補習を計画的に実施している。 ・7「学校生活は、充実」回答:1年①95.2%②90.2%、2年①84.9%②83.8%、3年①91.2%②95.1% ほぼ目標達成 ・学校運営協議会は、6月16日、2月22日の2回を開催。 ・インターハイ(ソフトボール、カヌー、空手)出場。囲碁・将棋部、商業部が全国大会出場	・学力の保障や進路実現に向けて、生徒の意識改革や模擬試験・検定・効果的な実施に努める。 ・次年度は、学校運営協議会開催に向けて努力する。 ・評価項目・内容を検討し、クロムブックを活用し、学期ごとに校内アンケートを実施する。
働き方改革	チーム学校づくりの構築をさらに推進する	○分掌業務の複数での取組はでき始めているが、部活動業務の分担に偏りが見られる。 ・45時間超勤務者を月平均5人以内 ・ベテラン教員から若年教員への業務指導及び協働 ・組織的な協力体制の構築 ・各種会議の短縮及びグループウェアの活用	・超過勤務の意識化とICTの活用 ・各学年やホーム担任・副担任での役割分担 ・各分掌内での役割分担、チームでの取組 ・職員会議の月1回の開催 ・部活動の役割分担	C ・45時間超勤務者は、(4月)15人、(5月)13人、(6月)17人、(7月)5人、(8月)1人、(9月)3人であった。理由は、ホーム担任業務、教科指導、部活動指導のほか、初任者研修指導や工業の事務局業務によるものであった。医師面談を1名実施したが、その後は面接実施には至っていない。	・超過勤務の意識化とICTの活用 ・各学年やホーム担任・副担任での役割分担 ・各分掌内での役割分担、チームでの取組 ・職員会議の月1回の開催 ・部活動の役割分担	C ・45時間超勤務者は、(10月)13人、(11月)15人、(12月)7人、(1月)6人、(2月)1人であった。理由は、ホーム担任業務、教科指導、部活動指導のほか、初任者研修指導や工業の事務局業務によるものであった。医師面談を2名実施した。	・働き方改革の観点から、教材研究の在り方を見直しや部活動の休業日の設定、ホーム担任や教科指導・部活動指導の分担等を行う。 ・職員会議の月1回開催を実施する。 ・専任は専任で専門の設置
産業教育の充実	○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	○基礎的な学習習慣が身につけておらず、基礎学力の低い生徒が多い。ホーム内での生徒の習熟度が異なる。工業技術者としての社会性と技術の向上。 ・各専攻の特質を生かした工業技術者としての知識や技術の修得(進路実現100%) (R3:95.2%) ・資格取得、合格に向けた指導(合格率 75%以上) (R3:70.3%) ・企業見学、外部講師事業の活用、充実 ・熟練教員による若年教員への技術の伝承	・朝学習やシラバスの有効活用 ・公開授業による参観授業、振り返りの実施 ・各教科会、科会の実施・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・課題解決型課題研究等の実施	B ・朝学習の5分間の活用 ・進路実現(9/30現在)進学5名 就職34名 総数39名 進路決定率30.95% ・資格取得 各種検定・資格等(9/30現在) 受験者数160名 取得者数94名 合格率58.75%(校長協会主催資格検定) ・学校行事 体育祭(9/29)は無観客での開催	・朝学習やシラバスの有効活用を進める ・公開授業による参観授業、振り返りの実施 ・各教科会、科会の実施・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・課題解決型課題研究等の実施	B ・朝学習の5分間の活用 ・進路実現(工業科)進学6名(国立大学1名) 就職、県内21名、県外19名、専門・各種8名 その他3名 希望進路先への進路決定100% ・資格取得 各種検定・資格等 受験者数229名 取得者数129名 合格率56.35%(校長協会主催資格検定)	・外部発信の強化を図る。 ・工業学科ごとの生徒への指導や教員間の技術・情報の共有を図る組織とシステムづくり。 ・先進技術の活用・研修への取組。 ・進路実現100%と資格を1人2つの取得を目指す。